

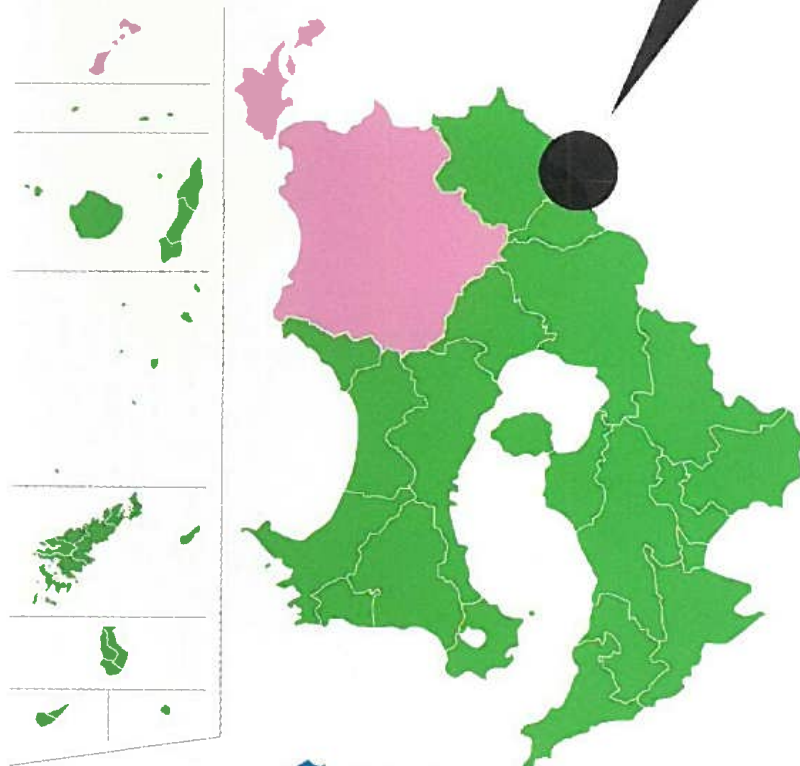
とんとん  
鹿児島

# 探訪 | 文化財 | かごしま

KAGOSHIMA  
CULTURAL PROPERTY  
EXPLORATION

北薩地区

KAGOSHIMA  
再発見



鹿児島県

はじめに

鹿児島県教育委員会では、本県に所在する文化財の価値を広く国内外に発信し、本県の魅力を伝えるため、文化財をテーマとした観光モデルコースを設定し、歴史ガイドブック「かごしま文化財探訪」やPR動画を制作しました。

本書は、今年度対象地区とした北薩地区におけるテーマごとの観光モデルコースや、その文化財を掲載したものです。来年度以降、他の地区についても作成することとしています。

本県は、九州最南端に位置し、その範囲は奄美群島まで南北約600kmにもわたり、各地で様々な文化が育まれ、現在も数多くの文化財が残されています。本書では、県内の一部の文化財を紹介しておりますが、これを糸口として、県内外の多くの方々が本県の文化財に興味を持ち、探訪していただければ幸いです。

令和2年3月

鹿児島県教育委員会

---

本ガイドブックに紹介させていただいた一部の文化財については、動画もご覧いただけます。



<https://www.kagoshima-kankou.com/s/movie/53308/>



日本の南端に位置する鹿児島県は、  
 特徴的な地理環境を背景に多様な歴史や文化が育まれてきました。  
 全国的には、西郷隆盛や大久保利通らを輩出した  
 幕末・明治維新期の歴史に注目されますが、  
 それ以前やそれ以後の時代の文化財も  
 鹿児島らしい物語を湛える価値に溢れています。  
 それらの魅力ある文化財を探訪することは、  
 新たな鹿児島との出会いにつながるかもしれません。

探訪 | 文化財 | かごしま

## 戦国島津をめぐるコース

- 和睦石・泰平寺 09
- 島津歳久及び殉死者の供養塔 10
- 阿久根砲(阿久根市民交流センター) 11
- 中馬大蔵の墓 12
- 亀井山城本城跡 13
- 薩州島津家の墓 14
- 出水城跡・出水麓武家屋敷群 15
- 宗功寺墓地(島津忠長の墓) 16
- 入来麓武家屋敷群・清色城跡 17
- いくさ墓 18



探訪 | 文化財 | かごしま

## 古墳をめぐるコース

- 天辰寺前古墳 21
- 船間島古墳 22
- 鳥越古墳 23
- 脇本・新田ヶ丘古墳群 24
- 淵ノ尻古墳 25
- 指江古墳 26
- 小浜崎古墳群 27
- 温之浦古墳群 28
- 三船古墳 29
- 小向江古墳 30



探訪 | 文化財 | かごしま

## 幕末・明治維新を感じるコース

- 北郷家墓地 33
- 平佐焼窯跡 34
- 松木弘安(寺島宗則)旧家 35
- 野間之関跡 36
- 出水麓武家屋敷群 37
- 島津長丸の墓(宗功寺墓地) 38
- 島津長丸肖像画(宮之城歴史資料センター) 39
- 西南戦争薩軍の回達(宮之城歴史資料センター) 40



探訪 | 文化財 | かごしま

- その他の文化財 41
- まめ知識・コラム 48



三船古墳  
温之浦古墳群  
小浜崎古墳群  
指江古墳  
長島町  
小向江古墳

松木弘安(寺島宗則)旧家  
中馬大蔵の墓  
淵ノ尻古墳  
脇本・新田ヶ丘古墳群  
南九州自動車道  
高尾野北  
野田  
にし  
いずみ  
出水  
いずみ  
野間之関跡  
出水城跡・出水麓武家屋敷群

阿久根砲(阿久根市民交流センター)  
鳥越古墳  
うしのはま  
阿久根  
肥薩おれんじ道  
さつまおおかわ  
阿久根北  
のたごう  
たかおの  
薩州島津家の墓  
亀井山城本城跡

阿久根市  
にししかた  
さつまたき  
薩摩川内市  
島津歳久及び殉死者の供養塔

川内川  
船間島古墳  
くさみち  
かみせんだい  
薩摩川内高江  
和睦石・泰平寺  
くまのじょう  
薩摩川内都  
南九州自動車道  
こばん  
ちゃや

島津長丸の墓(宗功寺墓地)  
島津長丸肖像画(宮之城歴史資料センター)  
西南戦争薩軍の回達(宮之城歴史資料センター)  
宗功寺墓地(島津忠長の墓)

入来麓武家屋敷群・清色城跡  
いくさ墓  
蘭牟田池

# 熊本県

## 出水市

## さつま町

## 薩摩川内市

# 戦国島津をめぐるコース

北薩地区

KAGOSHIMA  
再発見

戦国期の北薩地区は、様々な勢力による対峙・対抗が繰り広げられた地です。鎌倉期に地頭職として関東から下向した渋谷一族や、島津本家を脅かす存在でもあった薩州島津家関連の文化財は特に魅力的で、その奥深さに触れることができるコースです。

JR川内駅 発

🚗 約10分

1 和睦石・泰平寺

🚗 約10分

2 島津歳久及び殉死者の供養塔

🚗 約12分

3 阿久根砲(阿久根市民交流センター)

🚗 約45分

4 中馬大蔵の墓

🚗 約20分

5 亀井山城本城跡

🚗 約20分

6 薩州島津家の墓

🚗 約10分

7 出水城跡・出水麓武家屋敷群

🚗 約30分

8 宗功寺墓地(島津忠長の墓)

🚗 約25分

9 入来麓武家屋敷群・清色城跡

🚗 約10分

10 いくさ墓

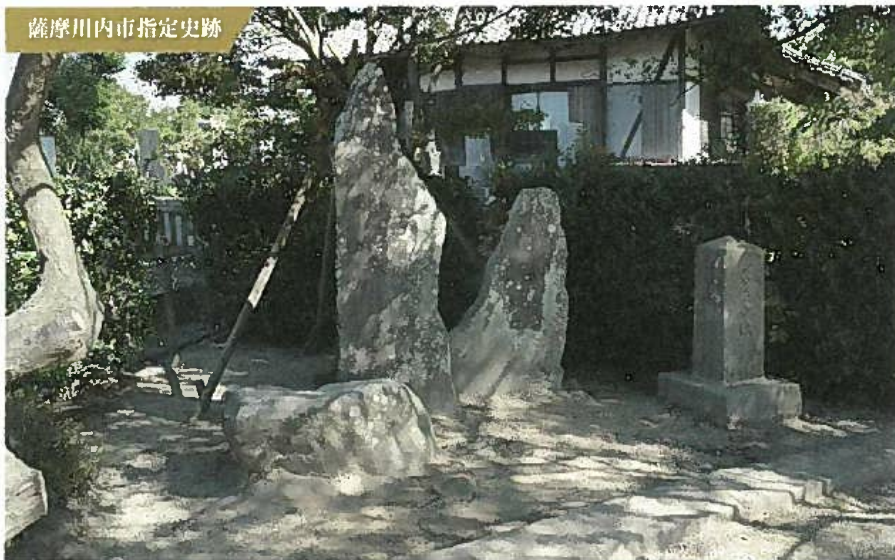
🚗 約35分

JR川内駅 着

# 和睦石・泰平寺

わぼくせき・たいへいじ

薩摩川内市指定史跡



## 豊臣秀吉と島津義久が和睦を結んだ場所。

泰平寺は、天正15（1587）年豊臣秀吉の薩摩侵攻の際に豊臣軍の本陣が置かれ、秀吉と島津家第16代当主義久（剃髪して名を龍伯と改め）が、和睦を結んだ場所で、その際、敷地にあった大石で作られた記念碑が和睦石として今も語り継がれています。天正15（1587）年、天下統一を目前にしていた豊臣秀吉は、反抗勢力だった島津氏を討つために25万とも伝えられる大軍を動員し薩摩へ向けて出陣しました。同年4月に平佐城を開城させた秀吉は、5月に泰平寺の本陣に入り、島津氏の出方をうかがいます。降伏を決断した義久は、泰平寺に向かい秀吉と対面、和睦の儀が行われました。会見は、両者とも武将らしい態度であったと伝えられ、和睦が成立、島津氏は存亡の危機を脱しました。



■周辺環境



■お問合せ先

薩摩川内市教育委員会文化課  
☎0996-23-5111

■所在地

薩摩川内市大小路町  
2105-2



# 島津歳久及び殉死者の供養塔

しまづとしひさおよびじゅんしゃのくようとう

薩摩川内市指定史跡



薩摩川内市教育委員会から提供

## 切腹した歳久の追悼碑と、歳久に殉死した家臣の追悼墓。

島津歳久及び殉死者の供養塔は、田海町の天沢寺跡にあります。島津歳久は、島津家第15代当主貫久の3男で、祁答院（現在のさつま町全域一帯）を治めていました。文禄元（1592）年の文禄の役の際、歳久が病気を理由に秀吉の出陣の命に従わず、また、同年6月、文禄の役最中に、島津氏の家臣で大隅国菱刈郡湯之尾地頭の梅北国兼が起こした反乱軍の中に歳久の家臣が多かったことから、秀吉は、兄義久に歳久の首を差し出すべきことを命じました。同年7月、義久は歳久を鹿児島市亀ヶ水に攻めて自害させ、その首を秀吉に差し出しました。歳久56歳、この亀ヶ水の戦で主君に殉じた24名の中には、東郷出身の家臣たちが多数含まれていました。



■周辺環境



■お問合せ先

薩摩川内市教育委員会文化課  
☎0996-23-5111

■所在地

薩摩川内市田海町  
2409



## 阿久根砲(阿久根市民交流センター)

あくねほう (あくねしみんこうりゅうせんたー)

県指定有形文化財



### 中世ポルトガル王室由来の大砲。

阿久根砲は、昭和32（1957）年に阿久根市旧台場近くの海岸の砂浜で、小学生によって発見されました。仏郎機（フランキー）、または波羅漢（ハラカン）と呼ばれる後装式蛇砲の最も進んだ形式のものです。仏郎機とは、中国でポルトガル人やスペイン人を指した言葉で、日本では、スペイン・ポルトガル人がもたらした大砲のことを指します。波羅漢は、江戸時代に外国から伝来した大砲を呼んだ名称です。砲身の上面にある紋章は、ポルトガル王室のもので推定されており、リスボンゴアで製造されたものと考えられています。当時の船舶に積まれていたものと思われ、阿久根と海外とのつながりを知ることができるものです。



■周辺環境



■お問合せ先

阿久根市教育委員会生涯学習課  
☎0996-72-1051

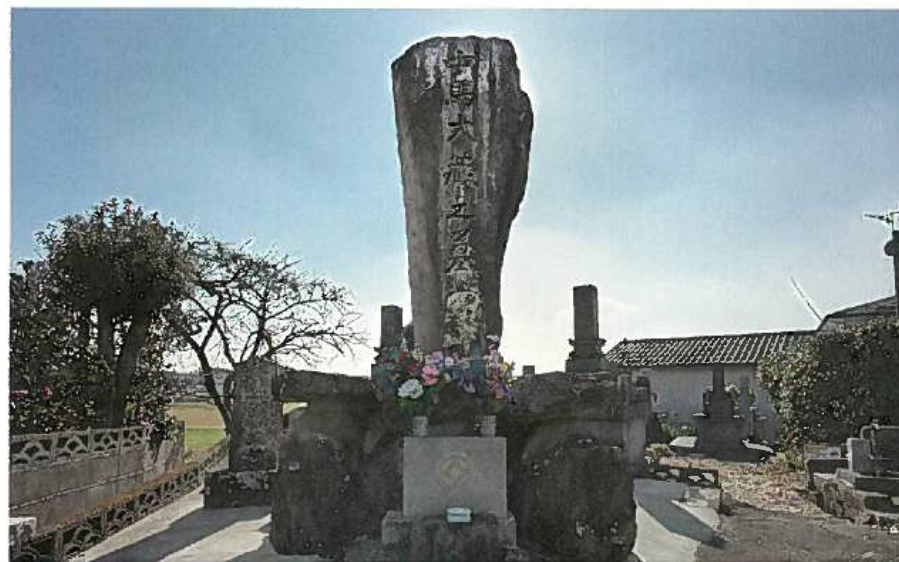
■所在地

阿久根市塩鶴町2-2



## 中馬大蔵の墓

ちゅうまんおおくらのはか



### 島津義弘に信頼された猛将。

中馬大蔵（ちゅうまんおおくら）の墓は、阿久根市脇本にある、中世末期から江戸初期の島津家に仕えた戦国武将、中馬大蔵の墓です。中馬はもともと市来郷に生まれた郷士でしたが、文禄・慶長の役での活躍が島津義弘の目に留まり、肥後との国境の守りを任されることとなります。その後参戦した関ヶ原の合戦では、義弘とともに敵中突破を図り、無事単人の富隈城へ帰還しました。いわゆる薩摩の“ぼっけもん”で、その豪快な性格から、彼にまつわる様々な逸話が現在まで伝えられており、人々に親しまれた武将であると言えます。



■周辺環境

■お問合せ先

阿久根市教育委員会生涯学習課  
☎0996-72-1051

■所在地

阿久根市脇本1858



## 亀井山城本城跡

かめいやまじょうほんじょうあと

出水市指定史跡



### 山門院郡司・薩摩平氏の領地。

亀井山城跡は、出水市野田町上名にある中世の山城跡です。今からおよそ850年前の平安時代末期に山門院郡司職の平種国がこの城を築いたとされています。後に島津氏の居城である木牟礼城を擁護するなど、島津氏の三国経営（薩摩・大隅・日向）を助けた重要な山城でした。亀井山城は土塁で囲まれた本城跡の曲輪と蔵之城跡の曲輪が中心で、その他にも大・小12の曲輪があり、これらを合わせた14の曲輪で構成されています。山城の東西には敵の侵入を阻むような湿地帯があるなど、自然の地形をうまく利用しており、城全体の広さは50万㎡にも及びます。永禄8(1565)年、野田を治めていた島津忠兼一族が滅亡したことにより、廃城になったと考えられています。

MAP C-2



## ■周辺環境

## ■お問合せ先

出水市産業振興部文化財課  
☎0996-63-2111

## ■所在地

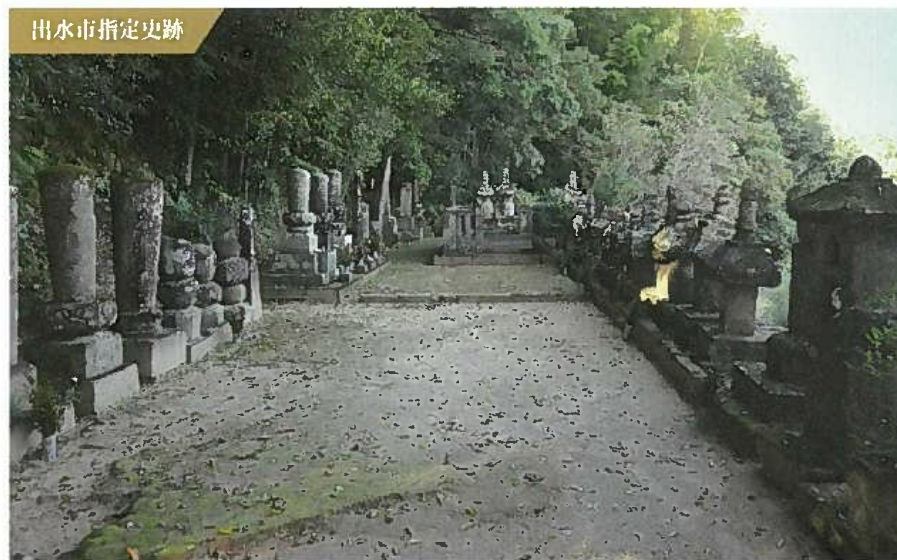
出水市野田町上名



## 薩州島津家の墓

さつしゅうしまつげのはか

出水市指定史跡



### 薩州島津家歴代の墓所。

薩州島津家の墓は、出水城(亀ヶ城)の西側にある丘の上、薩州島津家の菩提寺であった達磨山龍光寺跡の近くにありま。140年間出水5万石を支配した薩州島津家初代用久、2代国久、3代重久、4代忠興、5代実久、6代義虎、7代忠辰及びその一族の墓所です。初代用久は、島津本家9代忠国の弟で、兄に代わり国一揆と呼ばれた領内の反乱を鎮圧し、阿久根、野田、高尾野の諸域を収めて出水城に入り、薩摩守と号していたことから薩州家と言うようになりました。薩州家初代用久が出水で政治を始めた享徳2(1453)年から、7代忠辰が文禄の役の際に朝鮮への上陸を拒否し、秀吉から領地没収の命を下され、その後亡くなったことにより薩州家が断絶した文禄2(1593)年までの歴史を感じる事が出来ます。

MAP C-2



## ■周辺環境

## ■お問合せ先

出水市産業振興部文化財課  
☎0996-63-2111

## ■所在地

出水市武本2893





## 出水城跡・出水麓武家屋敷群

いずみじょうあと・いずみふもとぶりやしきぐん

国重要伝統的建造物群保存地区／日本遺産



### 防御に優れた中世山城。

出水城跡・出水麓武家屋敷群は、出水市のほぼ中央部、米ノ津川と平良川に挟まれた台地の基部付近の丘陵地にあります。出水城は鎌倉時代初頭に築かれ、戦国時代の終わり頃まで使われていました。出水城の裾野には、江戸時代初期に、出水城から続く起伏の多い丘陵地を平らに整地して出水麓が作られました。出水麓の一部は国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されており、今でも碁盤の目のように整然と区切られた道路、美しい石垣や生垣、風格ある武家門などが江戸時代の武家集落の面影を残しています。島津氏は、守りを強化するために外城制度を設けましたが、中でも薩摩の北の玄関である出水には特に力を注いだと言われています。令和元年5月に日本遺産に認定された「薩摩の武士が生活した町」の主な麓の一つです。



#### ■周辺環境



#### ■お問合せ先

出水市産業振興部文化財課  
☎0996-63-2111

#### ■所在地

出水市麓町1572



## 宗功寺墓地(島津忠長の墓)

そうこうじほち(しまづただながのはか)

国指定史跡



### 石彫りの造形美で、圧倒的な存在感を放つ墓石群。

さつま町虎居の宗功寺は、江戸時代初めに、宮之城島津家2代忠長によって、松尾城跡に菩提寺として創建されたものです。忠長は島津義久・義弘などに従い、朝鮮出兵や関ヶ原の戦い後の徳川家との戦後交渉などに尽力しました。宗功寺跡には、現在、歴代領主やその家族など33基の墓が所在し、巨大な石廟型の墓が整然と並んでいます。石廟型の巨大な墓石群は九州屈指の規模です。その中であって、島津忠長とその夫人の墓は宝篋印塔という、島津宗家と同じ形態の墓碑となっています。



#### ■周辺環境



#### ■お問合せ先

さつま町教育委員会社会教育課  
☎0996-53-1732

#### ■所在地

薩摩郡さつま町虎居  
5255



# 入来麓武家屋敷群・清色城跡

いりきふもとぶけやしきぐん・きよしきじょうあと

国指定史跡(清色城跡) / 国重要伝統的建造物群保存地区 / 日本遺産



薩摩川内市教育委員会から提供

## 中世と近世の香りただよう武家屋敷群。

入来麓は、入来に位置する薩摩藩の麓の一つで、中世山城である清色城跡と、蛇行した樋脇川に囲まれた平地に武家屋敷群が広がっています。屋敷割は、近世に形成された街路を踏襲し、街路に面して玉石積の石垣と石垣上に植えられた生垣によって区画されており、周囲の山々と一体となり美しい緑地景観を生み出しています。清色城跡は、中世薩摩地方の在地豪族として活躍した入来院氏の城跡で、入来院氏については武家社会研究の基礎となる「入来文書」が残されています。シラス台地特有の切り立った空堀を有する縄張りは特筆で、かつ麓の居館地域の入来麓と一体となった景観を呈する山城跡です。令和元年5月に日本遺産に認定された「薩摩の武士が生きた町」の主な麓の一つです。



■周辺環境



■お問合せ先

薩摩川内市教育委員会文化課  
☎0996-23-5111

■所在地

薩摩川内市入来町  
浦之名77



# いくさ墓

いくさばか

薩摩川内市指定史跡



## 戦国入来院氏にまつわる石塔群。

いくさ墓は、戦国時代の入来院の領主や家臣達に関連する石塔群で、入来麓の南、入来町浦之名の固心院跡にあります。固心院は、16世紀半ばの当主重嗣時代に宗栄寺として創建されたと推定されています。生前に、死後の77回忌までの供養を済ませることを予修といいます。いくさ墓にある石塔は、その大部分が戦国時代の入来院の領主や家臣達が、戦への出陣前に自身の予修塔として造立したものです。塔型は宝塔や宝篋印塔が多く、領主の墓塔としては、6代重門、8代重長、9代重茂、10代重豊、11代重聡、12代重朝、13代重嗣などが確認されています。



■周辺環境



■お問合せ先

薩摩川内市教育委員会文化課  
☎0996-23-5111

■所在地

薩摩川内市入来町  
浦之名555



# 古墳をめぐるコース

北薩地区

鹿児島県の北西端地域には、特徴的な古墳が点在しています。それらをめぐると、古墳を築いた人々の思いに触れることができます。特に、風光明媚な場所に立地する古墳では、「安住の地を豊かにしたいと願う気持ちは時を超える」ことを感じさせてくれるコースです。

JR川内駅 発

🚗 約10分

1 天辰寺前古墳

🚗 約30分

2 船間島古墳

🚗 約30分

3 鳥越古墳

🚗 約20分

4 脇本・新田ヶ丘古墳群

🚗 約10分

5 湊ノ尻古墳

🚗 約15分

6 指江古墳

🚗 約20分

7 小浜崎古墳群

🚗 約10分

8 温之浦古墳群

🚗 約15分

9 三船古墳

🚗 約15分

10 小向江古墳

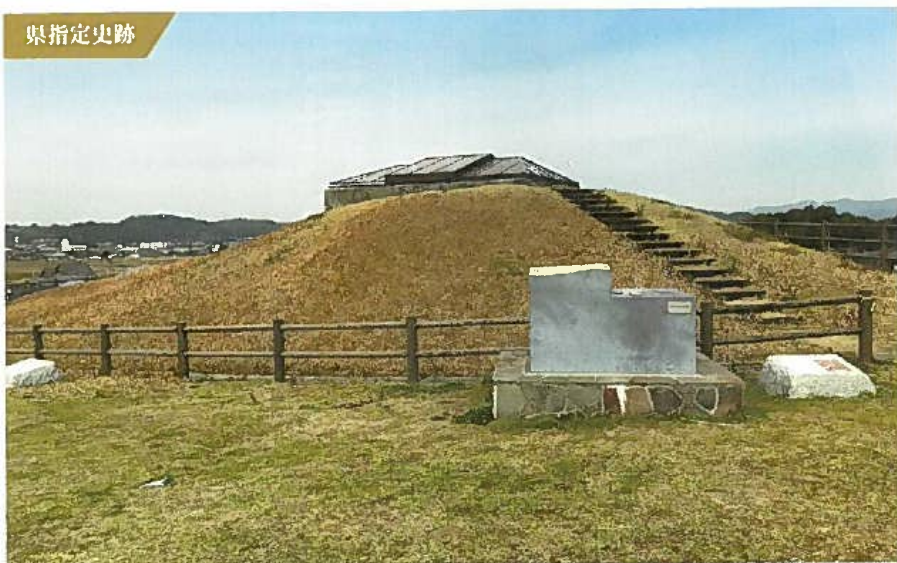
🚗 約70分

JR川内駅 着

# 天辰寺前古墳

あまたつてらまえこふん

県指定史跡



## 区画整理の工事中に偶然発見された古墳。

天辰寺前古墳は、天辰町にある今から約1500年前（古墳時代中期）の古墳で、平成20（2008）年6月、区画整理事業の工事中に偶然発見されました。その後の発掘調査により、未盗掘の竪穴式石室内から左腕に16個、右腕に2個のイモガイ製腕輪を身に着けた壮年女性人骨1体と、副葬品の銅鏡1面、刀子1口が出土しました。銅鏡や、南の海で採れるイモガイ製腕輪の存在は、当時、この地域が畿内や南方と広く交流があったことを示すものです。天辰寺前古墳を後世に残すため、周辺は古墳公園として整備されています。



### ■周辺環境



### ■お問合せ先

薩摩川内市教育委員会文化課  
☎0996-23-5111

### ■所在地

薩摩川内市天辰町  
寺前651-2の一部



# 船間島古墳

ふなまじまこふん

薩摩川内市指定史跡



薩摩川内市教育委員会から提供

## 船間島の最頂部に位置する古墳。

船間島古墳は、川内川河口の右岸、標高26.5mの丘の頂上にある、直径17m、高さ2mの円墳です。船間島はその名のとおりに元々は島でしたが、埋め立てが進み、現在は地続きになっています。地下には安山岩の板石が積み上げられた石室があり、その形態は不整形で、一枚の蓋石で覆われ、石室内や蓋石内面の一部に朱が塗られていることが分かっています。石室の形態については、竪穴式石室であり、川内平野を見渡すことのできる河口の島にあることから、畿内の影響を受けた有力者の墓であると考えられています。



### ■周辺環境

### ■お問合せ先

薩摩川内市教育委員会文化課  
☎0996-23-5111

### ■所在地

薩摩川内市港町  
船間島



## 鳥越古墳

とりこえこふん

阿久根市指定史跡



## 鹿児島県内で、最古の竪穴式石室。

鳥越古墳は、平成元(1989)年に土地区画整理事業に伴う工事中に発見されました。4世紀中頃(古墳時代前期)の築造と推定される県内最古の高塚墳とされています。発見時、墳丘はほとんど削られていましたが直径20~25mの円墳と思われ、前方後円墳の可能性もあると考えられています。埋葬施設は竪穴式石室で長さ4.4m、幅と高さが0.7mです。安山岩の板石を積んで作られ、床からはガラス玉も出土しています。石室は調査終了後、近くに移設され、整備・公開されています。また、高塚墳から南西に40m離れた台地からは、8基の地下式板石積石室も発見されており、4世紀の畿内の古墳と5~6世紀の南九州独自の墓制である地下式板石積石室が同一丘陵上にあることから、当時の支配体制の移り変わりや古墳文化の始まりを知ることができる遺跡です。

MAP B-3



## ■周辺環境



## ■お問合せ先

阿久根市教育委員会生涯学習課  
☎0996-72-1051

## ■所在地

阿久根市塩鶴町  
(はまじんちょう公園内)



## 脇本・新田ヶ丘古墳群

わきもと・しんでんがわかこふんぐん

県指定史跡 / 阿久根市指定史跡



## 鹿児島島の古墳文化を知る貴重な遺跡。

新田ヶ丘古墳は、阿久根市脇本にある4基の古墳からなる古墳群です。近くにある県指定史跡糸割洲古墳群と合わせて脇本古墳群と呼ばれています。6世紀後半から7世紀頃のものとして推定される横穴式石室2基、5世紀末から6世紀初頭頃のものとして推定される箱式石棺1基、地下式板石積石室1基で構成されています。横穴式石室2基は墳丘が失われており、石室の一部が地表に表れ、現地で見ることができますが、箱式石棺と地下式板石積石室は、地中に埋め戻され、確認することはできません。5~6世紀の南九州独自の墓制である地下式板石積石室と6~7世紀の畿内の高塚墳が同一丘陵上にあることから、当時の支配体制の移り変わりを知ることができる遺跡です。

MAP B-2



## ■周辺環境

## ■お問合せ先

阿久根市教育委員会生涯学習課  
☎0996-72-1051

## ■所在地

阿久根市脇本  
7695-2



# 淵ノ尻古墳

ふちのしりこふん

長島町指定史跡



## 長島の古代史の研究上で重要な古墳。

淵ノ尻古墳は、大正年代に盗掘が行われ、永年にわたる雨水等による自然流失で墳丘の封土は失われ、開墾により周辺地形は現状を留めていません。そのため、古墳の石室は露出し、集落の人々は、天井石の一枚を石室の奥壁に立てかけ、「アキバサア」(秋葉神様)として信仰の対象としてきました。昭和60(1985)年に発掘調査が実施され、肥後地方を中心に主に西北九州に分布する石障系の横穴式石室であることが判明しました。石室内の混土より6世紀中頃～6世紀後半頃と推定される須恵器片が採集されています。



### ■周辺環境

### ■お問合せ先

長島町教育委員会社会教育課  
☎0996-88-6500

### ■所在地

出水郡長島町山門野  
4639



# 指江古墳

さすえこふん

県指定史跡



## 海岸に広がる広大な古墳。

指江古墳は、長島町の中心地の指江の海岸にあり、長さ180m、幅15～70mの海岸の礫群の中に百数十基に及ぶ石室が構築されています。石室は、長さ2m前後、幅70～80cm、深さ60～70cm程度の小型のものが多く、主軸を海岸と直交する方向に造られ、平面形は長方形又は舟形で、床面には礫を敷き、上には平らな蓋石を乗せて塞いでいます。副葬品はほとんどみられません。古墳時代終末期に属するものとされ、積石塚の南限となっています。



### ■周辺環境

### ■お問合せ先

長島町教育委員会社会教育課  
☎0996-88-6500

### ■所在地

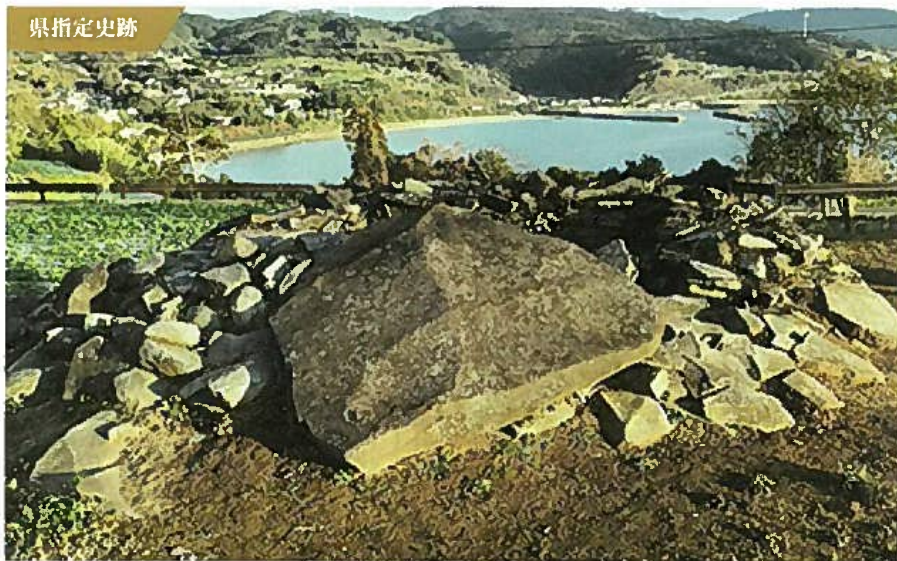
出水郡長島町指江  
598



## 小浜崎古墳群

おはまぎこふんぐん

県指定史跡



### 東シナ海に突き出した丘陵にある古墳群。

小浜崎古墳群は、長島の西北部、東シナ海に細く突き出した丘陵に点在する小浜崎古墳、白金古墳、鬼塚古墳1号墳・2号墳の総称です。小浜崎古墳は5世紀の築造と推定され、中心に竪穴式石室をもち、その上に円形の墳丘があったと推定されます。白金古墳は、6世紀後半の横穴式石室をもつ横石塚古墳です。墳丘は小規模なものです。金環や勾玉、ガラス小玉など多くの副葬品を出土した古墳です。鬼塚1号古墳は、横穴式石室をもつ円墳です。鬼塚2号墳は、竪穴式で複式の箱式石棺を有しています。築造はいずれも6世紀後半と推定され、天草諸島を通した肥後からの影響が認められます。

MAP A-1



■周辺環境



■お問合せ先

長島町教育委員会社会教育課  
☎0996-88-6500

■所在地

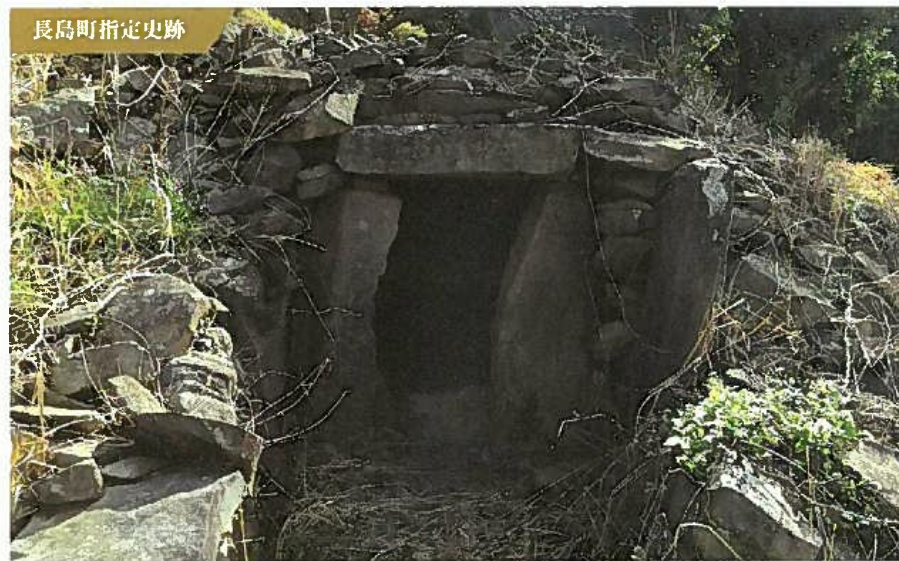
出水郡長島町小浜崎



## 温之浦古墳群

めくのうらこふんぐん

長島町指定史跡



### 古墳時代後期の積石塚古墳。

温之浦古墳群は、長島の北西部、天草諸島を望む入江の北側傾斜地にある5基から成る古墳群で、現在、3基が現存しています。昭和41(1966)年8月、池水寛治氏(当時出水高校教諭)によって1号墳～3号墳の発掘調査が行われました。いずれも横穴式石室を有する積石塚で、金環、銀環、ガラス製丸玉、勾玉、金銅製品、須恵器など多くの遺物が出土しました。築造は6世紀後半と推定されています。

MAP A-1



■周辺環境



■お問合せ先

長島町教育委員会社会教育課  
☎0996-88-6500

■所在地

出水郡長島町平尾  
3610-1



## 三船古墳

みふねこふん



## 横穴式石室を有する高塚古墳。

三船古墳は、長島本島北部の三船湾に面する西側半島の東部にあります。宅地造成により一部しか残存していませんが、平面形がほぼ正方形を呈し、羨道を有する横穴式石室の高塚古墳であったと推定されます。昭和61(1986)年に発掘調査が実施され、副葬品と思われる須恵器や土師器の杯と蓋が出土しました。三船古墳は、長島本島の最北端で発見された古墳であり、天草諸島を通じた肥後からの影響が認められます。



## ■周辺環境

## ■お問合せ先

長島町教育委員会社会教育課  
☎0996-88-6500

## ■所在地

出水郡長島町浦底



## 小向江古墳

こむかえこふん



## 地下式板石積石室に類似した石室の古墳。

小向江古墳は、長島本島と九州本土を隔てる海峡である黒之瀬戸の北側に位置し、海峡に向かって南に開口する加世堂湾の湾奥急斜面にあります。急傾斜崩壊対策工事中に発見され、3基の古墳の発掘調査が行われました。板石及び板石状の自然石を用いて葺石・石室を構築していますが、石室の構築方法が薩摩半島北部に多く見られる地下式板石積石室に類似していると言われています。1号墳からは鉄剣・鉄矛・土師器の埴が、3号墳からは鉄鍬と高坏が副葬品として出土しています。また、3号墳周辺より6世紀に該当する須恵器の甕が採集されています。



## ■周辺環境

## ■お問合せ先

長島町教育委員会社会教育課  
☎0996-88-6500

## ■所在地

出水郡長島町山門野





# 幕末・明治維新を感じるコース

北薩地区

再発見  
KAGOSHIMA

幕末期の薩摩藩では、次々に変わる局面に対して様々な人材が総力を挙げて幕府や海外との交渉等を行いました。島津斉彬が推進した集成館事業を支え、さらに英国への留学生派遣の引率を務めた寺島宗則が、明治新政府でも外務卿として活躍します。平佐郷の領主であった北郷久信は、海外向けの磁器の生産を模索します。そういった歴史の一端にも触れることができるコースです。

JR川内駅 発

🚗 約3分

1

北郷家墓地

🚗 約10分

2

平佐焼窯跡

🚗 約10分

3

松木弘安(寺島宗則)旧家

🚗 約30分

4

野間之関跡

🚗 約15分

5

出水麓武家屋敷群

🚗 約35分

6

島津長丸の墓(宗功寺墓地)

🚗 約3分

7

島津長丸肖像画(宮之城歴史資料センター)

🚗 約0分

8

西南戦争薩軍の回達(宮之城歴史資料センター)

🚗 約45分

JR川内駅 着

## 北郷家墓地

ほんこうけぼち

薩摩川内市指定史跡



薩摩川内市教育委員会から提供

## 平佐北郷家歴代の墓。

北郷家墓地は平佐町にあり、江戸時代に川内平佐を治めた平佐北郷家の歴代領主とその家族の墓です。北郷家の初代資忠は、島津家第4代当主忠宗の子で、日向の北郷院（現在の都城市）に封ぜられました。文禄4（1595）年に所領替えにより、10代時久は都城から宮之城へ、3男三久は平佐に封ぜられ、平佐北郷家の初代当主となりました。その領主館は、平佐城の本丸跡、今の平佐西小学校の地にありました。北郷家墓地前の広場には、明治初年まで北郷家の菩提寺である梁月寺があり、廃仏毀釈後、北郷家に移り住み館としましたが、今は屋敷跡となっています。特に、初代三久の墓は、高さ2.5mの石屋に納められた重厚な五輪塔です。

MAP C-5



■周辺環境



■お問合せ先

薩摩川内市教育委員会文化課  
☎0996-23-5111

■所在地

薩摩川内市平佐町  
2088



## 平佐焼窯跡

ひらさやきかまると

薩摩川内市指定史跡



薩摩川内市教育委員会から提供

## パリ万博にも出品された磁器を焼いた窯跡。

平佐焼窯跡は、平佐領主北郷家が天草や肥前から陶工を呼び寄せて築かせた磁器窯で、安永年中に創業を開始したと考えられています。碗や皿など、一般大衆向けの日用品から高価な美術品まで多種多様な焼物が生産されました。平佐焼の原材料は、天草産の陶石と地元産の良質な粘土であり、陶石の加工には水車が利用されていました。釉は、イスノキの皮を焼いて作った灰を混ぜることで青味がかっており、平佐焼の特色の一つとなっています。天保年間には向井与藤次によって赤絵の技法が、慶応年間には青木宗十郎によって筆甲焼の技法がもたらされました。慶応3（1867）年には、コンド・デモンブランの手によって、欧州向けの製陶技術が伝えられ、長崎を通じて欧州へ輸出されていました。

MAP C-4



■周辺環境

■お問合せ先

薩摩川内市教育委員会文化課  
☎0996-23-5111

■所在地

薩摩川内市天辰町  
2992



## 松木弘安(寺島宗則)旧家

まつきこうあん(てらしまむねのり)きゅうか

阿久根市指定史跡



### 未来ある子どもたちへ語り継ぐ場所。

松木弘安旧家は、阿久根市脇本にあり、松木弘安が少年時代を過ごした家です。松木弘安は、出水郷脇本の郷士長野増右衛門の次男として生まれ、5歳の時に松木家の養子となりました。長崎や江戸で蘭学や医学を学び、集成館事業では反射炉の建設や電信実験、綿火薬の開発、ガス灯研究など幅広く活躍しました。慶応元（1865）年には、薩摩藩英国留学生とともにイギリスに渡り、幕府の貿易独占を排除するためイギリス外務省へ協力要請を行いました。明治以後は、「寺島宗則」と改名し、神奈川県知事を務めた際には、国内外の電信政策を推進し、「電気通信の父」と呼ばれました。明治政府では外務卿、文部卿、元老院議長を歴任し、日本外交の近代化と不平等条約改正に尽力しました。



## ■周辺環境



## ■お問合せ先

阿久根市教育委員会生涯学習課  
☎0996-72-1051

## ■所在地

阿久根市脇本  
8978-1



## 野間之関跡

のまのせきあと

出水市指定史跡/日本遺産



### 薩摩の三大関所の一つ。

野間之関は、1600年前後に設けられた薩摩の三大関所（小川内関所(伊佐市大口)、去川関所(宮崎市高岡町)）の一つで、薩摩藩と肥後藩との国境付近にあります。江戸時代、ほとんど完璧なまでに独自の封建社会を築きあげた薩摩藩は、これを阻害する恐れのある人々の出入国を管理するため、二重鎖国ともいえるほど厳しい取り締まりを行いました。中でも肥後国との国境にある「野間之関」は薩摩第一級の番所であり、その峻厳さをもって全国に知られました。その出入国の厳しさから「薩摩びと いかにかやいかに刈萱の 関もとざさぬ 御世とは知らずや」と、高山彦九郎が書き残しています。現在は古井戸と小さな堀が往時を偲ばせるものとして残されています。



## ■周辺環境



## ■お問合せ先

出水市産業振興部文化財課  
☎0996-63-2111

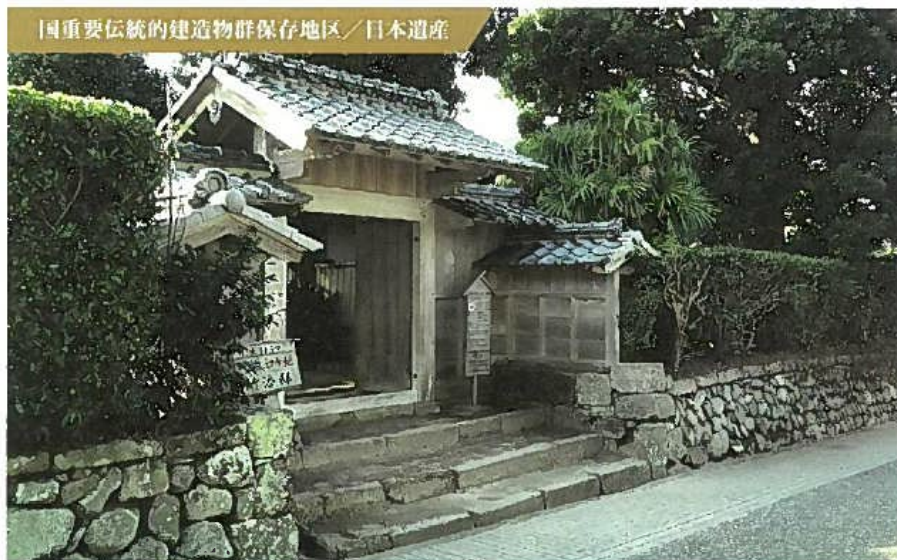
## ■所在地

出水市下鯖町2577



## 出水麓武家屋敷群

いずみふもとぶけやしきぐん



### 国境に築かれた薩摩藩最大級の防衛拠点。

出水麓武家屋敷群は、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されており、今でも碁盤の目のように整然と区切られた道路、美しい石垣や生垣、風格ある武家門などが江戸時代の武家集落の面影を残しています。江戸時代、薩摩藩は「外城制度」と呼ばれる地方支配制度により、各地に政務や警護を担う武士の住居と陣地を兼ねた「麓」を築き、藩内各地に約120ヶ所の麓があったといわれています。出水麓は肥後国との境に近く、防衛上重要な場所であったことから、規模も藩内最大級であったと言われています。麓内には御仮屋門や竹添邸、税所邸など江戸時代を思わせる建物などが残され、公開されています。令和元年5月に日本遺産に認定された「薩摩の武士が生きた町」の主な麓の一つです。



#### ■周辺環境



#### ■お問合せ先

出水市産業振興部文化財課  
☎0996-63-2111

■所在地  
出水市麓10



## 島津長丸の墓(宗功寺墓地)

しまづながまるのはか(そうこうじぼち)



### 貴族院議員を務めた宮之城島津家当主の墓。

島津長丸は宮之城島津家第15代当主久治の嫡子で、明治5(1872)年に第16代当主となりました。明治30(1897)年には男爵を授けられ、華族に列せられています。明治34(1901)年に貴族院議員に選ばれ、以後、2度選出されました。当初、久治と長丸の墓は吉野村(現在の鹿児島市吉野町)の宮之城島津家墓所に造られましたが、平成3(1991)年に宗功寺墓地に改葬されました。忠長夫人の墓の隣にある「宮之城島津家之墓」と刻まれた角柱形の墓がそれで、久治以降の歴代当主らが眠る墓です。



#### ■周辺環境



#### ■お問合せ先

さつま町教育委員会社会教育課  
☎0996-53-1732

■所在地  
薩摩郡さつま町虎居  
5255-2



## 島津長丸肖像画(宮之城歴史資料センター)

しまづながまるしょうぞうが(みやのじょうれきしりょうせんたー)

さつま町指定有形文化財



さつま町教育委員会から提供

### 洋画家の重鎮によって描かれた肖像画。

島津長丸肖像画は、貴族院議員を務めた、宮之城島津家第16代当主長丸の油絵の肖像画です。絵は、日本の洋画壇で指導的役割を果たした洋画家藤島武二によって描かれたもので、明治35(1902)年の制作ではないかと言われています。

●さつま町立宮之城歴史資料センター(9:00~17:00、月曜日休館日)



■周辺環境



■お問合せ先

宮之城歴史資料センター  
☎0996-52-3340

■所在地

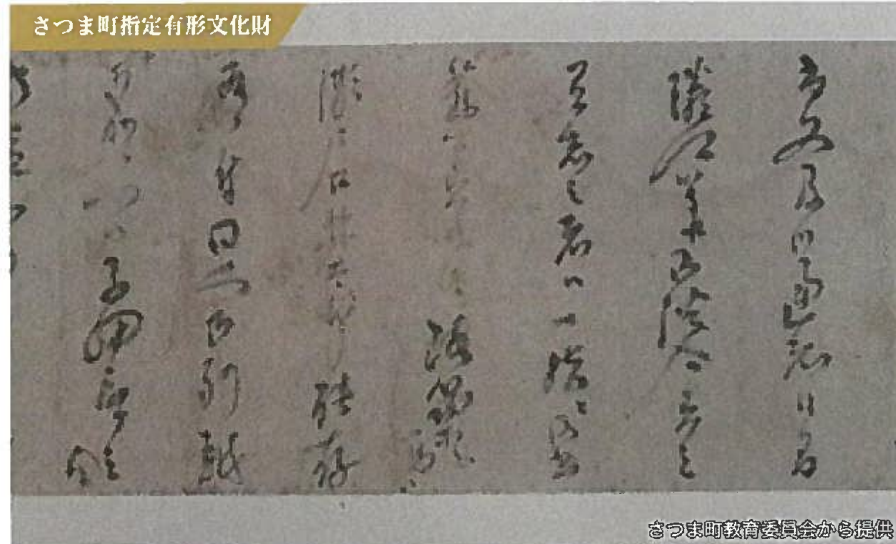
薩摩郡さつま町虎居  
5228



## 西南戦争薩軍の回達(宮之城歴史資料センター)

せいなんせんそうさつぐんのかいたつ(みやのじょうれきしりょうせんたー)

さつま町指定有形文化財



さつま町教育委員会から提供

### 西南戦争末期の貴重な資料。

西南戦争薩軍の回達は、明治10(1877)年9月5日付けの薩軍本営からの書状です。当時の戸長であった宇都宮恆蔵と平田幸助、大磯彦六に対し、鹿児島への増援として他郷の有志と共に駆け付けるように指示が出されており、西郷隆盛の自筆であると言われています。結局、鹿児島への援兵を送る事は出来ないまま城山は陥落してしまいました。城山陥落前の西郷軍の動きを知る資料です。

●さつま町立宮之城歴史資料センター(9:00~17:00、月曜日休館日)



■周辺環境



■お問合せ先

宮之城歴史資料センター  
☎0996-52-3340

■所在地

薩摩郡さつま町虎居  
5228



# その他の文化財

北薩地区

北薩地区は、古代は薩摩国の中心である国府が置かれた地でもあります。薩摩川内市の川内地区の国分寺跡は、そのことを静かに伝えてくれます。また鎌倉幕府より守護の任を受けた島津氏が最初に拠点を置いたのも北薩地区で、出水市の木牟礼城や感応禅寺の五廟社が関連文化財です。古き薩摩との出会いがあるかもしれません。

## 空順法印像

くうじゅんぽういんぞう

阿久根市指定有形民俗文化財



阿久根市教育委員会から提供

## 「火災鎮火の守護神」として敬い信仰

空順法印像は、阿久根市本町の中央公園にある石像で、1710年代に大火が続いた阿久根で7日間の断食や水行など、火止めの祈禱を行った高僧、空順法印を記念したものです。法印とは、僧の最高位の名称のことを指します。

■お問合せ先  
阿久根市教育委員会生涯学習課  
☎0996-72-1051

■所在地  
阿久根市本町（中央公園内）



## 南方神社宝物・神舞

みなみかたじんじやほうもつ・かんめ

阿久根市指定有形文化財・  
県指定無形民俗文化財



阿久根市教育委員会から提供

## 今に残す、古の面影。

南方神社は、阿久根市波留にある神社です。神舞は、宝暦年間（1751～64）には踊られていたとみられます。また、南方神社には、神舞に使用される鬼神面、翁面を始め、13～15世紀に中国で作られた鏡や、中世作の木造の狛犬などがあります。

■お問合せ先  
阿久根市教育委員会生涯学習課  
☎0996-72-1051

■所在地  
阿久根市波留3096



## 八郷のへゴ

はちごうのへご

阿久根市指定天然記念物



阿久根市教育委員会から提供

## 熱帯・亜熱帯に産する木性シダ。

八郷のへゴは、阿久根市脇本にあります。へゴは熱帯・亜熱帯に産する木性シダで、県下では、根占・内之浦・甌島などに自生地があります。八郷のへゴは、昭和初期に確認され、県本土最北限の自生地として脚光を浴びました。

■お問合せ先  
阿久根市教育委員会生涯学習課  
☎0996-72-1051

■所在地  
阿久根市脇本八郷



## 山田昌巖の墓

やまだしょうがんのはか

出水市指定史跡



出水市教育委員会から提供

政治力にすぐれ、出水の産業振興に力を注いだ地頭。

山田昌巖の墓は、出水市の西側、薩州島津家の墓所がある丘陵の頂にあります。寛永6(1629)年、出水郷地頭として福山(霧島市)から赴任し、勤儉尚武の徳をすすめて、産業の振興にも意を注ぎ、慈愛をもって人々に接するなど善政をししました。出水の土風は盛んになり、「出水兵児」の名が起りました。

■お問合せ先  
出水市産業振興部文化財課  
☎0996-63-2111

■所在地  
出水市武本2893



## 木牟礼城跡

きのむれじょうあと

出水市指定史跡



出水市教育委員会から提供

島津氏三州支配の基礎となる城。

木牟礼城跡は、出水市高尾野町江内にある中世の城跡です。文治2(1186)年、薩摩・大隅・日向三国の地頭職に任ぜられた島津忠久が家臣の本田貞親に命じて築城させ、島津三州支配の拠点となりました。島津家の家臣が常駐し、守護勢力の拠点となり5代の貞久まで続きました。

■お問合せ先  
出水市産業振興部文化財課  
☎0996-63-2111

■所在地  
出水市高尾野町江内(木牟礼)



## 感応寺

かんのうじ

出水市指定史跡



出水市教育委員会から提供

栄西禅師が開山した日本最初の七つの禅寺の一つ。

感応寺は、建久5(1194)年島津家初代当主忠久が創建した。日本最初の禅寺の一つで、島津家菩提寺として栄えたところです。寺宝の本尊十一面千手観音像、脇立四天王像など、多くの文化財が保存されています。境内には、島津家初代から5代までの墓碑である五廟社が残されています。

■お問合せ先  
出水市産業振興部文化財課  
☎0996-63-2111

■所在地  
出水市野田町市下名字三斗頭5753



## 川平の巨石群

かわひらのきよせきぐん

出水市指定天然記念物



出水市教育委員会から提供

稀に見る珍しい巨石群。

川平の巨石群は、出水市野田町上名の丘陵上にあり、高さ4m、周囲30m程の巨石が点在しています。噴出源は不明ですが、11万年以上前に噴出して堆積した溶結凝灰岩が、長年の間に玉ねぎ状の風化が進行して同心円状の球形を呈するようになったとされています。

■お問合せ先  
出水市産業振興部文化財課  
☎0996-63-2111

■所在地  
出水市野田町市上名7576-1



## 薩摩国分寺層塔

さつまこくぶんじそうとう

薩摩川内市指定有形文化財



薩摩川内市教育委員会から提供

鎌倉時代の層塔。

薩摩国分寺層塔は、国分寺町の薩摩国分寺跡にある鎌倉時代に建てられたとされる石製の層塔です。層塔とは、供養などの目的で木や石で造られた、奇数の層を成す塔です。一般的な層塔同様、塔の四面に仏像が刻まれています。何回かの移設を経て、現在地に設置されています。

■お問合せ先  
薩摩川内市教育委員会文化課  
☎0996-23-5111

■所在地  
薩摩川内市国分寺町字大都及び下台の一部



## 倉野磨崖仏・六地藏塔

くらのまがいぶつ・ろくじざうとう

薩摩川内市指定史跡



薩摩川内市教育委員会から提供

印象的な仏教遺跡と、供養塔。

倉野磨崖仏・六地藏塔は、樋脇町倉野にある鎌倉時代の仏教遺跡です。磨崖仏は梵字17字、陽刻仏像1基、陰刻五輪塔3基などからなっています。梵字の中でも、「オーンク」は、日本にただ一つのもので知られています。六地藏塔には6面に地藏が彫られています。

■お問合せ先  
薩摩川内市教育委員会文化課  
☎0996-23-5111

■所在地  
薩摩川内市樋脇町倉野1181



## 新田神社の大樟

にったじんじやのおおくす



## 新田神社にある大樟の木。

新田神社の大樟は、樹齢2,000年と言われている。地上2mのところは大穴牟遲神（おあなむちのかみ）が彫刻されていますが、これは島津義弘の影武者となり討死にした阿多長寿院盛淳が自ら彫り、奉納したものと伝えられています。

■お問合せ先  
薩摩川内市教育委員会文化課  
☎0996-23-5111

■所在地  
薩摩川内市宮内町1935-2



## 甌島のトシドン

こしきじまのとしどん



## 大晦日の伝統行事。

甌島のトシドンは、下甌島の各集落に伝わる大晦日の伝統行事です。シュロヤソテツの葉っぱや紙などで作った仮面を身につけた青年たちがトシドンに扮し、子供のいる家を訪れ、一年間の行いを戒め、新しい年はよい子で過ごさよう約束させます。平成30（2018）年11月に、「来訪神：仮面・仮装の神々」としてユネスコ無形文化遺産に登録されています。

■お問合せ先  
薩摩川内市教育委員会文化課  
☎0996-23-5111

■所在地  
薩摩川内市下甌町



## 里・手打の武家屋敷群

さと・てうちのみけやしきぐん



## 玉石を丹念に積み上げた見事な石垣。

上甌島の里地区と下甌島の手打地区は、中世から近世にかけて小川氏が統治し、藩政期には麓が置かれており、往時を偲ばせる武家屋敷通りが残っています。整然と積み上げられた玉石垣と生け垣のコントラストが美しく、夏はこの生け垣にカノコユリが咲き誇ります。令和元年5月に日本遺産に認定された「薩摩の武士が生きた町」の主な麓の一つです。

■お問合せ先  
薩摩川内市教育委員会文化課  
☎0996-23-5111

■所在地  
薩摩川内市里町里及び下甌町手打



## 紫尾山神興寺跡

しびさんしんこうじあと



## 西国の高野山とも呼ばれた天台宗の大寺院。

紫尾山神興寺跡は、大権現のお告げを受けた空覚上人によって、紫尾山頂上に上宮権現、山麓に紫尾山祁院神興寺と紫尾山三所権現が創建されたと伝えられています。紫尾山は西国の高野山ともいわれ、修験者が多数入山して、西国有数の入峯修練の大道場となるほどの規模を誇りました。神興寺は、天正年間に戦乱のため荒廃しました。紫尾権現は、現在紫尾神社となり、神興寺の跡地に建てられています。

■お問合せ先  
さつま町教育委員会社会教育課  
☎0996-53-1732

■所在地  
薩摩郡さつま町紫尾



## 興詮寺(本堂)内陣

こうせんじ(ほんどう)ないじん



## 貴重な寺院建築。

興詮寺は、渋谷行重によって永仁5(1297)年に建立され、初めは松尾寺と言いました。応永5(1398)年頃現在地へ移り、松尾山興詮寺へ改称したと伝えられています。現本堂の内陣は禅宗の様式をとどめており、細部の意匠から15世紀後半に建築されたものと推定されます。明治の廃仏毀釈を免れた、県内では皆無に近い中世まで遡ることができる寺院建築です。

■お問合せ先  
さつま町教育委員会社会教育課  
☎0996-53-1732

■所在地  
薩摩郡さつま町広瀬1175



## 永野金山関連史跡

ながのきんざんかんれんしせき



## 往時の隆盛を偲ぶ金山跡。

永野金山は、寛永17(1640)年に宮之城家当主島津久通によって発見され、昭和28(1953)年の閉山まで300年近くにわたって多くの金が産出されました。第8代の鉱業館館長には、西郷隆盛の長子である西郷菊次郎が就任しています。現在でも関連する様々な遺構が残されており、永野金山の往時の様子を偲ぶことができます。

■お問合せ先  
さつま町教育委員会社会教育課  
☎0996-53-1732

■所在地  
薩摩郡さつま町永野金山





## 獅子島の化石

しじまのかせき

長島町指定天然記念物



長島町教育委員会から提供

クビナガリュウの化石が獅子島に。

獅子島は、日本有数の化石の産地で、「化石の島」と呼ばれています。島のあちこちに約一億年前の白亜紀の地層が露出しており、アンモナイトや貝の化石など様々な化石が発見されています。特に、九州で初めて発見されたクビナガリュウの化石は、「サツマウツノミヤリュウ」と名付けられています。

■お問合せ先  
長島町教育委員会社会教育課  
☎0996-88-6500

■所在地  
出水郡長島町獅子島



## 蔵王権現像

ごおうこんげんぞう

長島町指定有形民俗文化財



山岳信仰の聖地に安置された像。

蔵王権現像は、長島の山岳信仰の聖地である行人岳の不動王明王廟内に、ご本尊として安置されています。正式名称を金剛蔵王権現といい、山岳仏教である修験道の本尊です。この像は宝暦12（1762）年に奉納されたとの記録が残されており、江戸時代中期の薩摩藩の修験道を知ることができます。

■お問合せ先  
長島町教育委員会社会教育課  
☎0996-88-6500

■所在地  
出水郡長島町浦底



## 温州みかん発祥の地

うんしゅうみかんはっしょうのち

長島町指定史跡



長島から広まったみかん。

長島町は、温州みかんの発祥の地と言われています。約500年前に中国から伝えられたみかん類から、突然変異または自然交配によって生まれたものと考えられています。江戸時代末に長崎に来たドイツ人医師のシーボルトは、温州みかんの標本にNagashimaと記していました。温州みかんは、外国ではサツマオレンジと呼ばれています。

■お問合せ先  
長島町教育委員会社会教育課  
☎0996-88-6500

■所在地  
出水郡長島町鹿楽



## まめ知識

古いお墓で見かける！  
お墓の形！

お墓は、歴史上の人物と相対することができる唯一の場所です。古いお寺跡などでよく見かける形のお墓を覚えておくと、先人たちのルーツをより深く知ることができます！

### 五輪塔 こりんとう



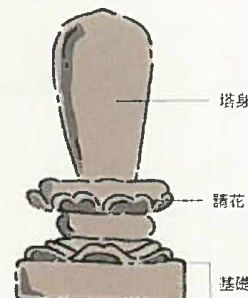
密教において考え出された形で、下から地・水・火・風・空の「五大」=宇宙を表しています。また、その他にも五体満足という言葉があるように、5つの石が人間の体を構成しているともされています。

### 宝篋印塔 ほうきょういんとう



元々は塔婆（仏舎利=仏様のお骨）の一形式です。墓塔や供養塔として造られるようになりました。島津家の代々の当主の墓はこの形式で造られており、伝統的なお墓の形といえます。

### 無縫塔 むほうとう



主に禅宗のお坊さんのお墓で見られる形です。その塔身に縫い目や継ぎ目が無いことから、無縫塔と呼ばれるようになりました。塔身が卵形という特徴があり、別名「卵塔」とも呼ばれています。

※お墓は禁じられた場所へは踏み入らず、みだりに墓がずれる危険を持ってお参りしましょう。

## コラム

### 日本遺産・薩摩の武士が生きた町。

**勇** 猛果敢な薩摩の武士にとって大切とされた鹿児島城の威厳は、御楼門の復元によって蘇りました。その鹿児島城を本城として、地方に配置された「外城」である「麓」には郷土と呼ばれる武士が居住しました。2019年5月には、鹿児島城とともに鹿児島県内にある11の外城や関連の文化財が日本遺産に認定されました。薩摩藩の国境に置かれた防衛拠点であった出水麓は、整然とした街並みはもちろん、その規模に驚かされます。戦国期まで活躍した山城の清色城の麓に築かれた入来麓は、玉石垣の美しさに魅了されます。どこも薩摩の武士の息吹とその景観を受け継いできた人々の気持ちに会える構成文化財にあふれている日本遺産です。



特定非営利活動法人  
まちづくり地域フォーラム・  
かごしま探検の会

代表理事 東川 隆太郎

## 出典一覧

---

- 鹿児島県ホームページ
- 鹿児島県教育委員会ホームページ
- 鹿児島県観光連盟ウェブサイト
- 鹿児島県国保連合会ホームページ
- 薩摩川内市ホームページ
- 薩摩川内観光物産ガイドホームページ
- 阿久根市ホームページ
- 阿久根市観光ウェブサイト
- 出水市ホームページ
- 出水市観光ポータルサイト
- さつま町ホームページ
- 長島町ホームページ
- 日置市観光協会ウェブサイト
- 鹿児島日本遺産ホームページ
- 現地説明板

---

## かごしま文化財探訪 北薩地区

発行日 令和2年3月

発行者 鹿児島県教育委員会

〒890-8577 鹿児島市鴨池新町10番1号

電話 099-286-5355(文化財課)

---